



特定非営利活動法人

医学統計研究会

Biostatistical Research Association

Newsletter No.1 (166)

2018.1.29

新年おめでとうございます。内外ともに平穏な感じで新年の幕が開きました。本年も会員の皆様とともに、印象に遺る生産的かつ有意義な「事業」を勢いよく進めたいと存じます。「世界に唯一のNPO」としての「志」に基づく活動は、今年も意気軒昂に進めていきたいと存じます。会員の皆様には、本年もご高配・ご協力をよろしくお願いいたします。・・・・・・・・・・後藤昌司・松原義弘



1 年頭にあたり、海外で活躍されている本研究会の「志士」たちにご登場いただきました。以下にお寄せいただいた順に列記いたします。

新年あけましておめでとうございます。今年で渡米生活5年目に入りましたが時の流れが早いと感じています。年齢を重ねたからか、あるいは（以前に比べると改善されたものの）いまだアメリカで四苦八苦しているからなのか、原因はわかりません。

さて、昨年はサマー・インターンでPh.D.の学生にメタ・アナリシスの方法論に関する性能評価を実施してもらうという経験を積ませてもらいましたので報告させてください。昨年は業務が大変に忙しかったので人手が欲しかったことありますが、携わった動機は自分が指導して成果物を出すという経験を積みたかったからです。最近では日本でもインターンを募集している企業が増えていると伺いましたが、話を伺う限り、日本では学生に会社の事を知ってもらうために短期間、開催するのに対し、アメリカでは戦力として考え、日本よりも長期間、業務に携わってもらうことが多いように感じています。

統計関連のサマー・インターンについて、アメリカでは年初に American Statistical Association (ASA) の定期刊行誌 (AMSTAT NEWS) に多くの会社が募集広告を掲載します。Pfizer も毎年、広告

を出していますが、昨年も掲載し、そして同時に社内でサマー・インターンのプロジェクトの募集がありましたので、そちらに応募して私の提案が承認され、学生を一人、雇うことができました。会社全体では数件程度の提案が承認されましたが、その承認された数に比べて、かなりの多くの学生 (MS, Ph.D., Post-Ph.D. を含む) が応募してきたのに驚きました。正確な人数は覚えていませんが、少なくとも 200 人はいたと思います。勿論、学生は複数の会社に履歴書を提出しますので良い学生はすぐに決まってしまう、採用する方も必死です。私は「自分のプロジェクトに関する専門性を有しているどうか」という視点で複数の学生と電話で面談し、フィーリングが合った学生をお願いをしました。正直、全ての候補者が経験豊富で迷いましたが、最後の決め手は熱意です。全員と WebEx による電話会議を設定しましたが、一人だけ Web カメラを使い顔が見える状況で熱意を伝えてきた学生がいたので彼を採用し、そして 10 週間で期待にこたえた成果を上げてくれました。この経験を通じて私が学んだ・実感したことは以下の三つです：

- ①国に関係なく熱意は人の心を動かすこと。それには“One to all”ではなく“One to one”で向き合うことが大変に大事であること。
- ②学生は仕事の経験を求めて応募してくるので、それに応えるために（学生ではあるが）一人の専門家として対応したほうが良い場合もあること。
- ③統計学に携わる層の厚さ（人の多さ）を実感したと同時に自分も学び続けること、成果（勤行、作品の両方）を出し続ける必要性があること。

新たな知見もありましたが、日本で教えて頂いた「根本」は国を超えても同じだなと思いました。

最後に、今年も宜しくお願い致します。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山邊太陽

医学統計研究会の皆様、新年明けましたおめでとうございます。米国イリノイ州の弊社 US 法人 **Astellas Pharma Global Development, Inc** に出向しております武田健太郎です。2016年7月から赴任しており、気が付けば1年7ヶ月が経過いたしました。米国での生活にもだいぶ慣れましたが、時折日本の食べ物が恋しくなる日々を過ごしています。

現在、会社の業務では主に **Immuno-oncology therapy** 関連の薬剤開発に携わっております。抗がん剤の中でも比較的新しい作用機序の薬剤になりますので、臨床的なエンドポイントや統計的な評価方法もまだまだ完全には定まっておらず、日々新たな知識を仕入れつつ試行錯誤しながら業務を進めております。前例がほとんど無い中で、統計・非統計を含めた多様な専門家の方々と議論をしながら自分の頭で考えて実臨床試験を計画・実行することは、大変貴重な経験となっております。日米では仕事の進め方で異なる部分も多く、それぞれで長所短所はあると思うのですが、米国では、統計だけでなく臨床や規制当局も含めた薬剤開発全体で新しいことに取り組みやすい土壤があると感じています。

学問に関しましては、私の現在の研究テーマ (**Bayesian clinical trial design, oncology statistics**) は私の実業務に直結していることもあり、研究活動になんとか継続的に取り組むことができている。日々の研究活動に加え、国際学会への参加・発表、論文投稿も定期的に行うことができおり、これらの活動の中には日米の統計家の方との合作も含まれております。今後も「統計学」という共通言語を通じて、日米の統計家の方々と協働して「作品作り」を進めていきたいと考えております。以上、乱筆乱文で申し訳ございませんが、近況の報告になります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・武田健太郎

皆様、新年明けましておめでとうございます。大日本住友製薬の US 子会社である Sunovion Pharmaceutical Inc.に現在出向中の中村将俊です。US の赴任も 1 年と 9 ヶ月が過ぎました。2 度目の US の寒い冬は、気温が-10℃を下回る日が続き、昨年にもまして辛く長い冬を過ごしておりますが、本年も駄文ながら海外報告をさせていただきます。



昨年度の報告は柄にも無く真面目で面白くない(つまらん)とお叱りを受けてしまいましたので、今年は気分を高揚させながらアメリカでの『遊』について嬉々と報告させていただきます。添付の写真は、FL 州の南端の島 Key west にある Southernmost point と呼ばれる、アメリカ最南端の場所になります。現在の住まいは NJ 州と NY 州の境の町にあるのですが、そこから自家用車で片道 3 日間の長距離ドライブの末にたどり着きました。往路はアメリカ大陸東海岸沿いの町々をドライブしながら、主に US Navy が所有する

軍艦の博物館などを周り、FL 州オーランドでは妻と子供の念願でした Disney World でクリスマスを過ごし、写真の Key west まで足を伸ばしました。復路はアトランタにある友人宅に立ち寄った後、ビルトモアを初めとするアパラチア山脈沿いの町々をドライブしながら、全長 6,000km のドライブ旅行を満喫してきました。どれぐらいの距離かと言いますと、日本最北端宗谷岬から日本列島最南端佐多岬までの距離で 2,700km とのことですので、往復できますね、記事を書きながら驚いております。

折角ですので、道中の話でもひとついたしますと、旅の初日の朝、何を思ったか Google Map の行き先を海軍基地にセットし意気揚々と出発したところ、基地に近づいてきたところで軍服を着た守衛さんがいるゲートにさしかかりました。Just sightseeing である旨を伝えると、ライフルを持った軍人さんがゲートの脇の小部屋から 3 名出てきて私の車を取り囲み、包囲されたまま車は誘導され、向かった先にはゲートの出口がありました。あ、追い出されたな、と察した私はそのまま基地沿いの来た道を車で戻っていますと、今度は大きな青い看板に”Welcome!”と書かれた基地のゲートを発見しました。ここが入り口だったのかと思い、ただ一物の不安はありながらも再度突入してみたところ、また 4 人のライフルを持った軍人さんに囲み誘導されながら基地から追い出されました。この結果は、突撃する前に既に脳裏をよぎっておりましたが、何事もやってみなければ分からないというチャレンジ精神がアメリカ生活で培われたことを感じ、同時に自身の成長を感じた瞬間でもありました。

残りの旅程の出来事については紙面の都合上割愛させていただきますが、この年末の旅行の他にも、昨年 US であった Total Eclipse を見に Yellow stone park (スケールの大きい大分)へキャンピングカーを利用して旅行して参りましたので、写真を添付します。目を疑うほど美しい風景が一瞬にして真っ暗になった瞬間は生涯感じたことのない感動を味わいました。息子(8歳になりました)にはもう一度見たいとせがまれてしまいました。無理だ息子よ。



こちらでの在任期間はあと1年とちょっとという予定ではありますが、来年も機会を頂ければ、家族ともども健康にアメリカ生活を送っていることをご報告させて頂ければと存じます。末筆になりますが、皆様の変わりないご活躍を祈念しております。今後とも宜しくお願い致します。.....
.....中村将俊

2 冬季セミナー2018大阪【定例会 [大阪]・定例研究会 [東京] との合同例会】が以下の次第で開催されました [敬称略].

日時：2018年1月20日(土) 13時30分～17時

会場：豊中市中央公民館

プログラム：

- ・ 尾崎寿昭：形状不変モデルの適用.
- ・ 池田敏広：Research hypothesis testing based on Bayesian approach.
- ・ 吉田 歩：近況報告.
- ・ 吹谷芳博：小児試験における Bayes 流標本サイズ設定の検討.
- ・ 谷岡健資：相関係数の差の信頼区間.
- ・ 下川敏雄：傾向スコアの利用の現状と実践事例.
- ・ 後藤昌司：計画と遂行の過程 2018.



—合同例会でのひとこま—



—課題検討会でのひとこま—

- 3 特定主題シンポジウム2018「製薬企業におけるデータ・サイエンティストの役割」が以下の次第で開催されます [敬称略].

日時：2018年2月3日（土） 10時～17時

会場：アステラス製薬(株) 日本橋本社別館8階ホール

プログラム：

- ・開会挨拶：製薬業界における Informatics and Analytics の現況

Nate Crisel (Head, Real World Informatics & Analytics, Astellas)

阿部一洋

- ・創薬研究におけるデータ・サイエンス

土屋貴徳・和田卓也

- ・臨床開発における生物統計家の役割

土屋 悟

- ・観察研究計画でデータ・サイエンティストのみなさまに期待すること

木村友美

- ・製薬における経営工学の利用：Data Analytics と Decision Science

伊藤雅憲

- ・医薬品マーケティングにおけるマルチ・チャネル分析の実際

大西一聡

- ・Real World Informatics におけるデータ・サイエンティストの役割

東郷香苗

- ・ビッグ・データと人工知能の創薬・医療における可能性

奥野恭史

- ・閉会挨拶

後藤昌司

- 4 定例研究会 [東京] が以下の次第で開催されます [敬称略].

日時：2018年2月2日

会場：エイツーヘルスケア(株) 会議室

プログラム：

大江基貴. 共変量調整を伴うロバストな2標本検定.

五十川直樹. 国際共同試験でのBayesian credible subgroups approachを用いた地域間差の評価.

永久保太士. 医学統計学の潮流：特定主題シンポジウム2018の主題について.

丸尾和司. 経時欠測データにおけるMMRMについて.

松原義弘. 医学統計研究会の現況：平成29年度会報（構想）.
後藤昌司. 計画と遂行の過程：2018年を迎えて

5 今後の予定をお知らせいたします[敬称略].

(1) 春季セミナー2018大阪が以下の次第で開催されます.

日時：2018年3月16日(金) 10時～17時

会場：参天製薬(株) 会議室

世話人：池田敏広

プログラムは近日中に配信いたします. 多くの方々のご参加・ご発表が期待されています.

(2) スプリング・フォーラム2018が以下の次第で開催されます.

日時：2018年4月7日(土) (1部)12時30分～17時 (2部)18時～20時

会場：大島小松川公園 (東京・大島)

世話人：山口祐介・五十川直樹・大江基貴

詳細は次号でお知らせいたします.

(3) 平成30年度第1回通常総会を以下の次第で開催されます.

日時：2018年6月2日(土) 16時～17時

会場：豊中市立中央公民館

(4) 大分統計談話会・第57回大会が以下の次第で開催されます.

日時：2018年2月8-9日(木-金)

会場：富士通大分システムラボラトリ

プログラムなどの詳細は既にホームページに掲載されています. 多くの方々のご参加が期待されています.

編集後記：久方ぶりに「写真」の整理を行った. 膨大な数の写真をアルバムに整形して整理した. このとき, 思ったことは, 「溜まらない内, あるいは溜めない内」に整理しておくことであった. 文化あるいは文明の発展のおかげで, 「視覚でできる形」でのこす技術が変化する. おかげで「印刷」に頼らない風潮が隆盛になってきた. 「携帯」には, 多くの方々から送信された画像が多くたまっているが, いつ消えるのか心配である. 故障のない限り, 「消えない」とのことであるが, 「形」にないものに頼るのは何となく不安であり, 「頼り」ない感じがする. このような感覚にとらわれるのは, 老いた者, あるいは時代遅れの者の性癖であろうか. 名和田 潜

Newsletter 編集：

後藤昌司・松原義弘・坂本 亘・富金原 悟・河合統介・藤澤正樹・杉本知之・大門貴志・伊藤雅憲・吉川隆範

連絡先：医学統計研究会 事務局 [吉田 舞・後藤 孚]

〒560-0085 豊中市上新田2丁目22-10-A411号

Tel & Fax : 06-6835-8790 / e-mail : bra_goto@ybb.ne.jp / URL: <http://www.bra.or.jp>

本ニュースレターの転載は全文・部分を問わず禁止させていただきます.